日本学習社会学会

第１７回大会プログラム

（オンライン及び紙面による発表プログラム）

2020 年 9 月 12 日（土）・9 月 13 日（日）

日本学習社会学会理事会・常葉大学第 17 回大会実行委員会共催

日本学習社会学会第 17 回大会の開催にあたって

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本学習社会学会第 17 回大会を常葉大学（静岡草薙キャンパス）で、2020（令和 2）年 9 月 12 日（土）～9 月 13 日（日）に開催させていただくことになっておりました。

しかし、新型コロナウイルスへの感染リスクが高まっていることから、皆様の安全を第一に考慮し、理事会での検討を踏まえて、以下のように変更させていただくこととなりました。

1）第 17 回大会に関しては、常葉大学（静岡草薙キャンパス）会場における開催は行いません（そのため、宿泊予約をされている方はキャンセルをお願いいたします）。

2）第 17 回大会に関しては、日本学習社会学会会長の判断により、『（仮称）日本学習社会学会第 17 回大会研究発表論文集』（※既に提出いただいた「発表要旨」）での紙面発表をもって、自由研究発表を行ったとみなします。

3）ただし、2）の紙面発表のみならず、口頭発表を希望される方には、web 会議形式での討議の場を 1 人 10 分（共同研究の場合も同様）設定させていただくことになりました。現在、「ZOOM」或いは「webex」を活用して、9 月 12 日（土）15 時～16 時を予定しています。

※3）の詳細につきましては、日本学習社会学会事務局から、今後皆様へ連絡が届く予定です。

皆様の安全確保を最優先に考え、このような決断をさせていただきましたことを、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

JR 草薙駅北口（静岡駅から 2 駅）に開設されたばかりの常葉大学の静岡草薙キャンパスに会員の皆様を迎えて、本学において 13 年ぶりになる学会大会を楽しみにしておりましたので大変残念ですが、来年度にお会いできますように改めて準備したいと思います。大会実行委員会委員一同、皆様にお会いできますことを楽しみにしています。

日本学習社会学会第 17 回大会　大会実行委員会

大会実行委員長	堀井　啓幸
事務局長	白鳥　絢也
委員	鈴木　守
	星野　洋美
	安藤　雅之
	宇内　一文

日本学習社会学会　第 17 回大会オンラインによる発表（理事会・委員会を含む）ご案内

1　開催要項

【期　日】　2020 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）
【会　場】　web 会議形式で開催
【参加費】　会員であれば無料

【大会プログラム】

<table>
<tr><td>月　日</td><td colspan="4">9：30　13:00　15:00　16:00</td></tr>
<tr><td>9 月 12 日（土）
12:30 ～ 受付</td><td></td><td colspan="2">受付 12：30～
理事会
13：00～15：00</td><td>自由研究発表
15：00～16：00</td></tr>
<tr><td>9 月 13 日（日）
9:00 ～ 受付</td><td>課題研究 1
9：30～11：45
国際交流委員会：「市民性教育の理論と実践に関する比較研究－日米英の動向について－」</td><td>昼食・休憩</td><td colspan="2">課題研究 2
13：00～15：15
大会実行委員会企画：「生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える－2030 年を見据えた教育課程との関わりから－」</td></tr>
</table>

2　オンライン大会に関する問い合わせ先

〒156-8550　東京都世田谷区桜上水 3-25-40
日本大学文理学部教育学科気付
TEL：03-5317-9370（事務局長田中謙研究室直通）
FAX：03-5317-9425（日本大学文理学部教育学科）
Mail:slearningsociety@gmail.com

※オンライン参加に関しましては、改めて学会 HP でお知らせいたします。

第１部

自由研究発表（オンライン）

9 月 12 日（土）15:00～16:00

司会　　佐藤 晴雄（日本大学）

【１】15:00～15:10
地域題材を生かす生活文化教育の創造
手塚 貴子（金沢星稜大学女子短期大学部）

【２】15:10～15:20
M.ノールズのアンドラゴジー再考－国外の成人教育研究の動向を手がかりとして
渋江 かさね（静岡大学）

【３】15:20～15:30
つながる学校図書館－多機能化による開かれた学びの場の実現へ－
磯部 真代（浜松市立芳川北小学校）

15:30～16:00　共同討議

※オンライン発表へ参加される方は、発表開始時にはマイクをミュートにして臨んでください。（発表者を除く）

※同じく、カメラでの顔出しもご遠慮ください。（発表者を除く）

※同じく、発表の録画はご遠慮ください。

第２部

自由研究発表（紙面）

【１】
学習指導改善のための地方学力テスト～その歴史的構造～
北野 秋男（日本大学）

【２】
日本人の生育環境と自己肯定感に関する一考察
－大学生を対象にした自己肯定感調査を通して－
末吉 雄二（日本大学大学院博士後期課程）

【３】
海洋環境の保全について－海洋プラスチックごみに着目して－
金子 弘（日本学習社会学会会員）

【４】
1970 年代における真駒内養護学校言語治療教室の社会的機能
田中 謙（日本大学）

【５】
カリキュラムに見るアイデンティティ醸成
大庭 由子（安田女子大学）

【６】
大分県における実科高等女学校の組織変更過程
－県立高等女学校移管をめぐる町村の競合－
冨士原 雅弘（日本大学）

【７】

多文化共生ファシリテーターの育成に向けた基礎研究

○良知 惠美子（常葉大学）
○増井 実子（常葉大学）
○谷 誠司（常葉大学）
○白鳥 絢也（常葉大学）
○江口 佳子（常葉大学）

【８】

地域の大学の役割と地域を担う人材育成に関する研究

－学生及び教員のエンゲージメントを促進する学修モデル

○津村 公博（浜松学院大学）
○田島 喜代美（浜松学院大学）

【９】

子ども落語を通した地方創世の試み２

－第 16 回大会学会企画「にこにこ寄席」東京公演がもたらしたもの－

○川上 宣久（奥出雲町立高尾小学校）
○宮崎 敦子（相模女子大学非常勤）

【１０】

バイブルとしての『生徒指導提要』の読み方

中島 正明（安田女子大学名誉教授）

【１１】

Microsoft Teams を活用した対話的授業の実践

星野 寛（東京都立瑞穂農芸高等学校）

【１２】

成人期の学習とウェルビーイング－セグメント化データによるマルチレベル分析－

森村 繁晴（大東文化大学非常勤講師）

【１３】

K 市の多文化共生に向けた取組の成果と課題

－外国人住民の生活支援のための情報入手に関する調査を踏まえて－

星野 洋美（常葉大学教職大学院）

第３部

課題研究１（オンライン）

市民性教育の理論と実践に関する比較研究
－日米英の動向について－

９月 13 日（日）9:30～11:45

国際交流委員長　赤尾勝己（関西大学）

テーマ：「市民性教育の理論と実践に関する比較研究－日米英の動向について－」

企画趣旨：

市民性教育は、先進諸国の学校教育を中心に次第に発展しつつある。そこで、今回の課題研究発表では、日本、アメリカ、イギリスの各国において、1980 年代から 2020 年まで、市民性教育がどのような発展をしてきているのか、その政策の動向と教育実践の展開を探る中で、その共通点と相違点について考察する機会としたい。

その際に、三つの国における市民性教育をめぐる光と影の両側面、社会階層との関連で学力の高い子どもが学ぶ学校とそうでない子どもが学ぶ学校においてどのような教育実践上の違いがあるのか、あるいは当該社会において人種・民族的マイノリティの人々との共生をどのように図ろうとしているのかといった、ミクロレベルからマクロレベルの連関性を意識した考察を目指していきたい。

本課題研究では、３名の発表者による報告だけにとどまらず、フロアの参加者の皆様と活発な議論を行いながら、これからの市民性教育のあり方を探っていく時間としたい。

司会　金山光一（早稲田大学（非））

(1)日本の場合　　若槻健（関西大学）

「日本の市民性教育は若者を社会にどのように包摂しようとしているのか―ボランティア学習・政治教育・キャリア教育―」

⑵アメリカの場合　　古田 雄一（大阪国際大学短期大学部）
「アメリカの市民性教育の動向と事例から―イリノイ州シカゴ学区を手掛かりに―」

⑶イギリスの場合　　大野順子（摂南大学）
「イギリスにおけるシティズンシップ教育の変遷」

第４部

課題研究２（オンライン）

生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える
－2030 年を見据えた教育課程との関わりから－

9 月 13 日（日）13:00～15:15

学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な施設設備であり、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成することを通して学校教育を支援し生涯学習の基盤を形成する役割を担ってきた。

日本学習社会学会では、第 13 回大会(2015 年北海道教育大学釧路校)の課題研究『コミュニティを培う図書館活動』において、学習社会の形成における主に公共図書館の役割と可能性について検討された。そこでは「顔の見える図書館」「主体性を持った市民」が相互に影響し合いながらコミュニティの力を高めていく活動となっていること、図書館は社会教育の場であると同時に学校との連携により学校教育をサポートする場でもあること、図書館の子どもを育てる活動を今後も検討する必要があることなどが示唆された。

第 13 回大会から既に５年間経過しているが、特に学校図書館については、学習指導要領が改訂され主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点からの学び）の基盤としての役割が学校図書館に期待されることとなった。また、『子供の読書活動の推進に関する基本的な計画』(2018)等に見られるように、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えようとする活動にあって、学校図書館や公共図書館等が連携・協力しながら，子どもの読書活動を推進する等、地域の学習を充実させる図書館の役割に対する期待はますます大きなものとなっているといえる。

そこで、本課題研究では、図書館でも、特に学校図書館が学校教育や地域において、どのような役割を果たしていくべきか、2030 年の学校教育を見すえた教育課程との関わりにおいて現状や課題について事例を踏まえて明らかにすると共に、今後の学校図書館の方向性示唆できればと考えている。

報告１：学校と地域に資する学校図書館の施設整備
　　－学習環境の設計をきっかけとした運営改善－
笠井　尚（名城大学）

報告２：自主的自発的な学習活動及び読書活動の推進
　　－学校図書館と市立図書館との連携－
河原﨑　全（御前崎市教育委員会）

報告３：「ブックカフェ」から社会に開かれた学びへ
　　－浜松市立芳川北小学校「つながる学校図書館プロジェクト」から－
磯部　真代（浜松市立芳川北小学校）

司会・コーディネーター：鈴木　守（常葉大学）